2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦
鈴鹿サンデーロードレース
RACE REPORT

■開催概要

●シリーズ名称　；MFJ公認・承認　2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿サンデーロードレース
●主催　；株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット
●会場　；鈴鹿サーキット国際レーシングコース・東コース（2輪/2.243km）
●参加台数　；総参加台数/223台

鈴鹿インターJP250 ……2台
鈴鹿・近畿ナショナルJP250……13台
鈴鹿インターST600……12台
鈴鹿・近畿ナショナルST1000……29台
CBR250R Dream Cupエキスパートクラス……33台
鈴鹿・近畿ナショナルST600……30台
鈴鹿インターJSB1000……20台
鈴鹿インターST1000……10台
鈴鹿インターJ-GP3……9台（内、NSF250R……2台）
鈴鹿・近畿ナショナルJ-GP3……17台（内、NSF250R……8台）
鈴鹿ST600R（Revival）……23台
CBR250RR Dream Cup……25台

●開催日　；2020年9月20日（日）
●天候／路面　；雨のち曇り／ウェット→ハーフウェット→ドライ

★次回レース予定
第56回 NGKスパークプラグ杯 2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ最終戦 鈴鹿サンデーロードレース
■開催日／2020年11月21日（土）・22日（日）
■会場／鈴鹿サーキット国際レーシングコース・フルコース（2輪/5.821km）
■開催クラス／ インターJSB1000、インター・ナショナルST1000／ST600・J-GP3・JP250、ST600R（Revival）、CBR250R Dream Cupエキスパートクラス、CBR250RR Dream Cup
■主催／株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。
リザルトページ　https://www.suzukacircuit.jp/result_s/

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。
バトルファクトリーHP　https://www.battle.co.jp/

SUZUKA SUNDAY 2020 SUZUKA CHAMPIONSHIP Round 4

「ST1000」など、見どころが多かった第4戦。最終戦で決まるチャンピオン獲得に向け、各カテゴリーのライダーが激しいバトルを展開！

新型コロナウイルス感染拡大の影響で開幕戦と第2戦が中止となった今シーズンの鈴鹿サンデーロードレースだが、実は今年は注目すべき内容が多いシーズンだ。

その最たるものが「ST1000」というカテゴリーが新設されたこと。このカテゴリーは「ストック」の名の通り、マシンの改造範囲が厳しく制限され、タイヤもダンロップのワンメイクで行われるなど、厳しくイコールコンディションが保たれているが、ベースとなるのはノーマル状態でもオーバー300km/hを実現するリッタースーパースポーツ。公道では決してそのポテンシャルを発揮することができないようなハイパワーを開放してのバトルは迫力満点。

このカテゴリーのレースが初めて行われた鈴鹿サンデー第3戦ではインターJSB1000／ST1000両カテゴリーの混走レースながらST1000の中村修一郎がポールポジションを獲得。その中村が決勝レースでも単独状態となり、そのままトップチェッカーを受けた。

今回も前回同様、公式予選からインターJSB1000勢とインターST1000勢が激しいタイムアタック合戦を展開した末に再び中村がJSB1000勢を抑えてトップタイムをマーク。しかも今回はインターST1000勢がトップ4までを占めた。そして決勝でも鈴木孝志と中村のインターST1000勢が総合ワンツーでチェッカーを受けた。また、MFJより各地方選手権のランキング3位までのライダーに「2020 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦 第52回MFJグランプリスーパーバイクレース in 鈴鹿」への参戦権が与えられることが発表されたこともあり、インターJSB1000／ST1000以外のカテゴリーでも見ごたえのあるレースが披露される一日となった。

実質的に7月5日（日）の第3戦で開幕した今シーズンの鈴鹿サンデーも、残すは11月21日（土）・22日（日）に開催予定の最終戦のみ。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、CBR250R Dream Cup／CBR250RR Dream CupのDUNLOP杯グランドチャンピオンシップが中止となったため、CBR250R Dream Cupエキスパートクラス／CBR250RR Dream Cup両カテゴリーの通常のレースが追加開催される。恒例の「NGKスパークプラグ杯」として開催されるこの最終戦にも是非ご注目いただきたい。

公式予選が行われた午前中は路面が徐々にウェットからドライに。タイヤ選択が難しい展開となった

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 レースレポート（1）

■インター／ナショナルJP250

ポールポジションスタートの福井宏至がスタートでウィリー。2番グリッドスタートの安田毅史がホールショットを奪う。安田、3番グリッドスタートの桐石世奈、5番グリッドスタートの南博之のオーダーでオープニングラップを終了。2周目に桐石が安田をパスする。安田と南がサイドbyサイドの状態で同じく2周目のメインストレートを走行。3周目終了時点で福井が桐石、安田に続く3位まで浮上する。笹之内英作と南を含めた5台がトップグループを形成。その5台が周回ごとに激しく順位を入れ替える。結局、安田がトップチェッカーを受けると同時にインターJP250のウィナーに。総合2位の福井がナショナルJP250を制することとなった。

インターJP250表彰式（優勝：安田毅史）

ナショナルJP250表彰式（優勝：福井宏至、2位：桐石世奈、3位：笹之内英作）

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 レースレポート(2)

■インターST600

ポールポジションスタートの筒井伸が良いクラッチミートを披露する。しかし、ホールショットを奪ったのは2番グリッドスタートの鈴木翔。それに5番グリッドスタートの酒井隆嗣が続く。鈴木、酒井、3番グリッドスタートの松永修のオーダーでオープニングラップを終了。筒井が4位で続く。序盤から鈴木と酒井がテールtoノーズのバトルを展開。筒井と門馬巧実が松永をパスする。5周目の1コーナーで酒井が鈴木をパス。次第に筒井と門馬が酒井と鈴木に接近。そこに羽根巧も加わり、トップグループは5台での争いとなる。11周目の1コーナーで筒井がトップに。後続を若干引き離してファイナルラップに突入した筒井の優勝が決まった。

インターST600表彰式　(優勝:筒井伸、2位:鈴木翔、3位:門馬巧実)

■ナショナルST600

ポールポジションスタートの可部谷雄矢、2番グリッドスタートの屋代原野、3番グリッドスタートの角田祐介のオーダーで1コーナーへ。グリッドのオーダー通りにオープニングラップを帰ってくる。可部谷と屋代は角田以降を引き離すことに成功。可部谷は屋代をも引き離して単独トップに。屋代、角田が単独2位、単独3位となる。レースは次第に膠着状態に。しかし、5周目になると屋代が可部谷のテールに接近していく。屋代は6周目に可部谷をパスすると一気にこれを引き離すことに成功。屋代は可部谷以降を引き離すが、終盤に可部谷がトップに。屋代以降に2秒539ものアドバンテージを築いた可部谷がトップチェッカーを受けた。

ナショナルST600表彰式　(優勝:可部谷雄矢、2位:屋代原野、3位:角田祐介)

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 レースレポート（3）

■ST600R（Revival）

2番グリッドスタートの早川貴務、ポールポジションスタートの小松孝章、3番グリッドスタートの尾畑貞幸のオーダーでオープニングラップを終了。早川がオープニングラップから早くも小松以降を引き離しにかかる。濱野龍が尾畑をパスして3位に浮上。小松は濱野を若干引き離すことに成功する。6周目の1コーナーで小松が早川のテールに接近。早川、小松、濱野がテールtoノーズのバトルを展開することとなる。谷村尚彦もトップグループに接近。増田訓士と尾畑がその後方を走行する。10周目の1コーナーで早川と小松が横並びの状態に。しかしその後も順位が変わることはなく、早川、小松、濱野のオーダーでチェッカーを受けた。

ST600R（Revival）表彰式　（優勝：早川貴務、2位：小松孝章、3位：濱野龍）

■CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ホールショットを奪ったのは3番グリッドスタートの大倉拓夢。しかしトップでオープニングラップを帰ってきたのは8番グリッドスタートの藤村太磯だった。その背後を5番グリッドスタートの折川翔馬、ポールポジションの福井宏至が走行。藤村、折川をパスした福井、そして折川の3台がトップグループを形成する。次第に藤村が単独トップに。福井と折川がテールtoノーズの状態で2位の座を争う。折川が福井をパスすると、折川も福井を引き離しにかかる。9周目になると折川と福井は再びテールtoノーズの状態に。福井がファイナルラップのメインストレートで折川に並ぶ。しかし、藤村、折川、福井のオーダーでチェッカーを受けた。

CBR250R Dream Cupエキスパートクラス表彰式　（優勝：藤村太磯、2位：折川翔馬、3位：福井宏至）

■CBR250RR Dream Cup

2番グリッドスタートの三浦雄一が良いクラッチミートを披露。それにポールポジションスタートの森真が続く。三浦が後続を引き離しにかかるが、森、三浦、4番グリッドスタートの中川涼のオーダーでオープニングラップを終了。その3台がスリーワイド状態で3周目の1コーナーへと突入していく。そこから若干離れて4位グループを形成するのは羽山成親、鈴木克正、堤寿浩の3台だ。中川が三浦、森を立て続けにパス。しかし、森がすぐにトップに返り咲く。三浦が中川と森をパスすると、8周目にはトップに。三浦がファイナルラップまで激しいバトルが続いたトップ争いを制することとなった。2位は中川。森が3位表彰台に立った。

CBR250RR Dream Cup表彰式　（優勝：三浦雄一、2位：中川涼、3位：森真）

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦
レースレポート（4）

■インターJSB1000／ST1000

インターST1000の中村修一郎がポールポジションからスタート。その中村がホールショットを奪う。その背後に続くのは3番グリッドスタートの中島陽向。中村、中島、2番グリッドスタートの鈴木孝志のオーダーでオープニングラップを終了する。鈴木が2周目の1コーナーで中島をパス。鈴木は3周目のメインストレートでトップの中村にも並びかける。中村、鈴木、中島、5番グリッドスタートの佐藤太紀の4台がトップグループを形成。鈴木が中村をパスする。その後も鈴木と中村はテールtoノーズのバトルを展開するが、鈴木がトップチェッカーを受けると同時にインターST1000のウィナーに。総合3位の佐藤がインターJSB1000を制した。

インターJSB1000表彰式　（優勝：佐藤太紀、2位：岩谷圭太、3位：川口篤史）

インターST1000表彰式　（優勝：鈴木孝志、2位：中村修一郎、3位：岸田尊陽）

■ナショナルST1000

3番グリッドスタートの目代祐紀がスタートで飛び出す。しかしオープニングラップのS字コーナーで転倒したマシンがあったことにより、レースは赤旗中断。リスタート後も目代がオープニングラップから後続を引き離すことに成功する。後続に1秒759のアドバンテージを築いてオープニングラップを終えた目代は2周目終了時点ではその差を3秒188に拡大。他のライダーと比べて1秒ほど速いペースでラップを刻む目代はその後も後続を引き離し続ける。2位を走るのは4番グリッドスタートの越智健仁。その越智も単独2位となる。結局、9秒563ものアドバンテージを築いた目代が堂々のトップチェッカー。越智が2位でレースを終えた。

ナショナルST1000表彰式　（優勝：目代祐紀、2位：越智健仁、3位：花村峻一）

2020鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦
レースレポート（5）

■インター／ナショナルJ-GP3／HRC NSF250R Challenge

ポールポジションスタートの江澤伸哉が良いクラッチミートを披露。その江澤、3番グリッドスタートの渡邉虎太郎、2番グリッドスタートの塚本武蔵、6番グリッドスタートの桐石瑠加と続いてオープニングラップを終える。塚本が渡邉をパス。堀井颯大が桐井をパスする。渡邉が塚本をパスして再び2位に。江澤、渡邉、塚本がトップグループを形成するが、塚本が若干遅れはじめる。レースが折り返しを迎える頃、堀井、桐石、金子寛、山本航らが4位争いを展開し、見どころを作る。11周目に江澤が転倒。渡邉がトップチェッカーを受けると同時にナショナルJ-GP3を制した。総合4位の金子がインターJ-GP3のウィナーに輝いた。

インターJ-GP3表彰式　（優勝：金子寛、2位：川瀬啓一郎、3位：大庭飛輝）

ナショナルJ-GP3表彰式　（優勝：渡邉虎太郎、2位：塚本武蔵、3位：高橋直輝）

HRC NSF250R Challenge表彰式　（優勝：渡邉虎太郎、2位：高橋直輝、3位：堀井颯大）

Voice of Pick up Riders -SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光ったライダーに一問一答

この日、キラリと光ったライダーに一問一答
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

インターST600クラスで優勝した

筒井 伸 選手(43歳)
(O-TEC suzuka usuki R&D RLUNZ／ヤマハYZF-R6)

Q. 公式予選でトップタイムをマークし、ポールポジションを獲得しました。どんな予選でしたか？

A. 天候を読めていました。路面が乾いてくることがわかっていたので、中古のレインタイヤでいきました。タイヤを使い切る勢いでアタックし、最後の方でタイムを出すことができました。

Q. 決勝レースではスタートで若干出遅れましたね。

A. クラッチミートは良かったのですが、その後にフロントが浮き、アクセルを戻さざるを得ませんでした。その隙に前に行かれてしまいました。オープニングラップを4位で終えてからは常に前を狙っていきました。

Q 11周目の1コーナーでトップに立ち、見事優勝を決めました。

A. 最終コーナーからの立ち上がり加速を優先する走りを心がけました。トップに立った後、ファイナルラップのメインストレートで後ろを振り返ったところ、少しだけ後続を引き離すことができているのを確認できました。ファイナルラップは特に気合を入れて走り、トップの座を守りました。